46	亜墨利加紀行（あめりかきこう）（写本）		
	ＡＪ-13		
	万延元年(1860）の遣米使節団随行員が記録した日誌。		

◆ 安政５年(1858)、幕府は日米修好通商条約に調印した。アメリカ側代表は初代駐日総領事のハリス（Townsend Harris）である。万延元年(1860)、条約の批准書交換のために、親見豊前守を正使とする遣米使節団はアメリカ艦船ポーハタン号で合衆国に赴いた。この日本人初の太平洋横断航海に、勝海舟を艦長とする咸臨丸が同行したことや、福沢諭吉が一行に加わっていたことはよく知られている。

本書はこの使節団に随行した小栗忠順（ただまさ）の従者の一人が記録した日誌である。１月18日の乗艦から始まり、９月27日の横浜沖到着まで、日々の天候、気温、船の位置等が几帳面に記されている。また、航海先で見聞した様々な風物、風俗がさし絵を交えて描かれており、見聞記としての価値を高めている。

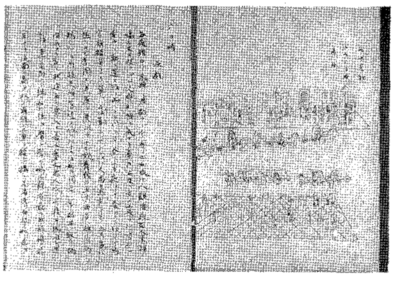
◆ 当館所蔵本は写本４冊である。「編脩地志備要典籍」「静岡学校」の印記をもつ。

47	第一回遣米日本使節図絵（複製）		
	Ｋ406-39		
	万延元年(1860）の遣米使節の一行について報じたアメリカの新聞の複製。		

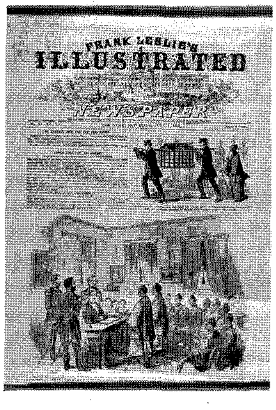
◆ 本資料は、日本の遣米使節一行の様子を報じたアメリカの新聞“FRANK LESLIES ILLUSTRATED NEWSPAPER”（1860年６月20日付）の複製版（６ページ分、６枚）である。紙名中に、「Illustrated」とあるように、使節団のアメリカでの様子を報じる多くの絵が描かれている。描かれているのは次の場面である。それぞれに詳細な説明、解説が加えられている。

①ホワイトハウスでの歓迎会　②アメリカ本土に到着し、多くの市民に迎えられている様子
③ホテルでの食事　④従者が荷物の整理をしているところ　⑤国務省長官との会見
⑥条約批准書の入った箱をアメリカの２人の警官が運んでいる場面

また、「日本と日本人　その歴史、社会制度、法律、習慣」という記事などは、当時の「外国から見た日本」の一端がうかがえて興味深い。



46　亜墨利加紀行（写本）



47　第一回遣米日本使節図絵（複製）